

春闘の力を6.23へ!



発行所
三池炭鉱労組
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番
③3034番
編集兼 渡田 紀生
発行人 年間600円 送料共

職場新聞活動を!
事実また職場新聞は、あらゆる現在、職場闘争をどうすすめるかという重大な問題が提起されています。今ほど信頼と話し合いが重要なときではありません。そのために、職場新聞活動を民主的に進めよう。

安保廃棄と沖縄奪還

三・二九 春闘集会 「久保さんの仇必ず討つ」

去月二十九日笹井公園で、五人の沖縄全軍労代表を迎え「CO・遺族闘争現地共闘委員会(総評・炭労・福福、熊本商評・大牟田、荒尾商評・三池労組)」主催のもとに開催された、故久保清三氏十周年・安保廃棄・沖縄奪還・春闘総決起集会は、すでに実施にはいる「日米共同声明」を粉砕し、その改訂日に当たる六月二十三日を期して安保廃棄・沖縄奪還を実現するため闘うことと十年前に「安保と三池」を闘った労働者の義務であり、また独立資本の手によって虐殺された久保清三氏の霊にこたえる道であることを確認し、そのために大きく大規模な闘争を勝ち取りつづける春闘の力を六月に向けて発展させ、鉄剣の弾圧をもとめず早くも七〇年闘争の先頭をきいて闘いに立ちあがっている沖縄全軍労とともに、断固として闘っていく覚悟を固めた。

三井鉱山が闘う労働者の隊列の中におくごんだ暴力団の一人、青月がふりかざすアイクナイによって、三池労組員の久保清三(当時三十二才)が虐殺されてから、このことがなまなましく思い起こされてきた。

——三池闘争は石炭エネルギー革命論のインテリゲンチヤを粉砕し、保安配の正体をあばきた。だから敵の攻撃もはげしく、中でも仲間の一人久保清三は痛ましき肩をならべて前進しよう。

肩を並べて... 三池闘争は石炭エネルギー革命論のインテリゲンチヤを粉砕し、保安配の正体をあばきた。だから敵の攻撃もはげしく、中でも仲間の一人久保清三は痛ましき肩をならべて前進しよう。

もち帰る三池の教訓

私たちに平和に生きる権利がある

首切り合理化断じて許さぬ

全軍労代表

大会に参加した沖縄全軍労代表の島袋光男さん(執行委員)の危険な方向は、すでに佐藤首相が訪米する以前からわかっていて、米軍の全軍労は、直ちに抵抗した。だから全軍労は、一度は、米軍の全軍労に立ちあがった。すなわち、第二波ストライキまで闘った。

×



もはや沖縄の単なる祖国復帰ではなく、それは核がくし返還というよりも、返って本土の沖縄化である。その情勢、いま三池の第三波をめ

勢の中で、全軍労に対する大量首切りの攻撃が加えられている。切りの攻撃が加えられている。危険な方向は、すでに佐藤首相が訪米する以前からわかっていて、米軍の全軍労は、直ちに抵抗した。だから全軍労は、一度は、米軍の全軍労に立ちあがった。すなわち、第二波ストライキまで闘った。

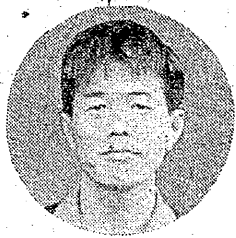
本番に向って

三池労組の活動家千二百名を解雇し、第二組合をつくらせた三井鉱山の真のねらいは、生活と権利、生命を守るためのものだった。三池の職場闘争を、また正しい労働運動を圧殺することだ。あなたを刺し通した会社お雇いの暴力団の刃こそ、そのねらいの具体的なあらわれだ。たのす。

さる三月二十五日福岡地裁でおこなわれた判決で、昭和三十八年六月十日会社から不当にも解雇された前島秀信さん(三十七才、本所指導部第一分員、測量工、現総評地方オグ)の解雇無効の仮処分が確定し、前島さんは職場復帰を勝ちとった。

前島さん、職場復帰勝ちとる 福岡地裁、解雇無効を判決

またも証明された会社の横暴



前島さん

労働者側、会社の都合で勝手に首切する事実をまたも内外にあらわにした。五月に出される予定の三池闘争の千二百名の代表者(百二十名)によっておこなわれている仮処分の結果も出されるが、それを前にして、この勝利は大きな意味をもっている。

「解雇権の乱用」

昭和三十七年から三十八年にかけて文字どおり組合をあげて支援した水俣闘争で、前島さんは三池労組の現地指導者として派遣されていたが、会社はその間のマル組とあつた上り下りした手続について全く不当な文句をついて「無期欠勤」であると一方的に判断し、昭和三十八年六月十日に前島さんを解雇したものである。

このように弾圧のあとに、三井鉱山は第三次合理化を強行し、三池労組、第二組合員を問わぬ全山の合理化をしかけ、日産一万五千トン体制へ労働者の血と汗を犠牲にしたがらやうきとなつていった。その結果は、ついに同年十一月九日の三井大爆発となったのであった。

これは甲斐さん、谷口さんら四名の職場復帰(昭和四十四年四月)にひきつづき法廷で証明されたこの会社の横暴は、三井鉱山の

おいて、久保清三さんを虐殺するまでに至った支配層の抑圧が、いま全軍労にふりかかっている。アメリカは、たとえ日米共同声明が出、佐藤が「沖縄は返還される」とくり返しても、奪い去られた土地は一回たりとも返されず、それどころか沖縄はますます要害化されている。美にその背景の中で、首切り合理化が押しつけられようとしているのだ。

過去二十五年間、アメリカ軍は本土から沖縄への渡航を制限し、大牟田と荒尾との間を鉄格子で封鎖するなことをしてきた。そのような沖縄の私たちは、好むと好まざるにかかわらず、基地の中で働いてきた。いま私たちが

今回の前島さんの勝利は、三池労組の破壊をねらった会社のハレチな意図に鉄釘を打ったもので、会社は責任をとるべきである。